人権啓発アニメーション

旅立ちの日に

■企画:北九州市　北九州市教育委員会　北九州市人権問題啓発推進協議会
■製作:東映株式会社　■アニメーション制作協力:ジェイ・シー・エフ
■プロデューサー:鎌田幸人　■声の出演:加藤優子/中嶋聡彦 ほか
■監督:小島多美子　■脚本:山上梨香　■音楽制作:蟠龍寺スタジオ
●16ミリ版/ビデオ版(16ミリ、ビデオの字幕入りもございます)

共に生きる社会をみんなの力で

北九州市人権啓発映画制作委員長　柿嶋　譲

「障害を持っていても、私は美和の親。親としての責任をちゃんと果たしたいのです。」

娘の旅立ちの日、披露宴の最後に親として挨拶がしたい。靖江は、磁気ボードに自分の願いを書きます。

靖江には、かつて夫の葬儀の折、何の相談もなく喪主の務めをさせてもらえなかったという辛い悲しい経験があったからです。この強い願いは、まわりの人たち理解と支えで実現します。

一方、ウエディングコーディネーターの圭子は、「障害者の中には表に出たがらない人もいる。だから、意見を押し付けるつもりはないの。でも、私は障害のある人もどんどん表に出てきて欲しい、それが当たり前に出来る社会になればいいなって思う。」と、日頃考えていることを述べます。

障害のある人が社会（社会・経済・文化その他あらゆる分野）に参加しようとする時いろいろな障壁がありますが、特に大きく立ちはだかるのは「心の壁」だと言われます。

障害者の周りの人が、どんな風に接したらよいかわからず逡巡(しゅんじゅん)していては、問題は解決しません。障害のある人、ない人両者が数多く触れ合うことで「心の壁」は、自然に崩れていくものでしょう。

今、みんな（男性にも女性にも、障害者にも、高齢者にも、子供にも･･･）に公平な、誰もが障害を感じない社会、ユニバーサル社会の形成が望まれています。それには、多くの人がふれあいや交流を通して、多様な価値観や個性の違いを認め合い理解を深め、共に生き、支え合い、そして協力しながら取り組むことが必要なのではないでしょうか。

16ミリ版	278,250円
ビデオ版	84,000円

価格は税込〔C#6781〕

【上映時間40分】

《ポイント》

- 障害のある人たちの社会参加
- 家事や育児に対する家族の協力
- 家族のつながり（コミュニケーション）等
- 世間体を気にすること
- いじめへの対応

制作のねらい

だれもが、人権尊重の大切さは知っています。しかし、周りの人や自分の言動を振り返ってみるとどうでしょうか。「こうあらねばならない」という固定的な考えや「こうすべきだ」という他人の意見に左右されて相手を認めようとしていないこともあるのではないでしょうか。

なかでも、私たちは障害のある人と接するときに、「障害があるからできないのではないか」という思い込みがあって、障害のある人の自立や社会参加を阻んでしまっていることがあります。

この映画は、あるウエディングコーディネーターが、手作りの結婚式の企画に携わる過程で、登場するそれぞれの人の力で家族の問題や世間体の問題などを解決し、自分の心にある見えない障壁を壊し、「心のバリアフリー」を形成していく様子を描いています。

この作品を通して、人権を尊重することが市民の日常生活の中で当たり前の行動として自然に出てくる社会をつくること、すなわち、「人権文化のまちづくり」につなげていくきっかけにしていただければ幸いです。

あらすじ

坂木真理子は、ウエディングコーディネーター。「オリジナル結婚式」を挙げたいと考えるカップルたちのために、式場の手配や披露宴のプラン作りなどを手伝うのが仕事だ。

娘・りんの出産を機に専業主婦をしていた真理子だったが、五年ぶりの仕事復帰。仕事は日に日に面白くなっていくものの、その分、家事に手が回らなくなり、夫の保は不満顔だ。

そんなある日、真理子は小学校時代の同級生、鶴田美和の結婚式の企画をすることになった。だが、二人は心の中にある「過去」を引きずっていた。美和の母・靖江には聴覚障害があり、美和はそのことが原因でいじめられていたのだ。美和と仲のよかった真理子も、結局は保身のために、美和をいじめる側に回ってしまった。美和を傷つけたという「心の痛み」を真理子は今でも抱え続けている。しかし、美和に謝るきっかけがない。

そんな真理子に美和は「母が喜んでくれるような結婚式を挙げたい。」と言う。婚約者の若林宏人も、堅苦しい形式にこだわらず、家庭的で心のこもった式にしたいと希望する。二十年前のつぐないの気持ちをこめて、二人のそんな心を反映させた式にしようと張り切る真理子。

しかし、宏人側の父・徹生と伯母のトシ子が、「待った」をかけた。世間体や家の格、親の面子を大事にする二人は、形式を踏んだ「恥ずかしくない」結婚式を挙げるべきだと主張。宏人に助太刀を頼まれた真理子は、若林家を訪問し「世間体より、結婚する二人の気持ちが大切」だと話し、今後は親も交えて結婚式を手作りにしていこうと提案する。

宏人の両親も納得し、美和の母・靖江とともに両家で結婚式場の下見が行われる。

式の進行を話し合ったとき、靖江が自分も参列者に一言挨拶がしたいと言う。「挨拶は、新郎の父親がするもの」「聴覚障害がある靖江には無理だ」という思い込みから、徹生は驚く。しかし、「障害があっても、親としての責任を果たしたい」という靖江の熱い思いに心を動かされ、真理子は何とか良い方法を考えると約束する。そして、手話、要約筆記、スクリーン字幕など具体的なアイデアを出し、「結婚式のバリアフリー化」を上司に訴える。

仕事に燃える真理子に保は、「女なんだから、仕事より家のことを優先しろ」と厳しい。真理子も家事を手伝おうとしない保に対して「男の身勝手だ」と反論。夫婦げんかになる。

そんななか、真理子は、親として娘に恥じないためにも、二十年前の自分の弱さや過ちを美和に謝る。美和がいじめによって受けた深い傷は、真理子の謝罪によって癒されていく。いよいよ美和と宏人の結婚式の日がやって来た。美和、靖江それぞれの感謝の気持ちを込めた「スピーチ」が始まる。

●坂木真理子（31）
新人ウェディングコーディネーター

●坂木保（たもつ）（35）
真理子の夫

●坂木りん（4）
真理子の娘

●鶴田美和（31）
真理子の小学校時代の同級生

●鶴田靖江（58）
美和の母

●若林宏人（ひろと）（32）
美和の婚約者

●若林徹生（てつお）（61）
宏人の父

●若林聡子（さとこ）（62）
宏人の母

東映株式会社　教育映像部
http://www.toei.co.jp/edu/

関東営業推進室　東京都中央区銀座3-2-17　〒104-8108　☎03−3535−3631
関西営業推進室　大阪市北区梅田1-12-6　〒530-0001　☎06−6345−9026
広島出張所　広島市中区八丁堀16-10　〒730-0013　☎082−511−2066
高松出張所　高松市本町11-7　〒760-0032　☎087−851−3766
福岡出張所　福岡市博多区中洲4-3-18　〒810-0801　☎092−262−3101

●お買い上げは……

北辰映像株式会社